



完成した「不可能立体」を手に、めいじろうと一緒に

ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～

科学研究費助成事業（科研費）の成果を小中高生に体験してもらおう「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」が8月、黒川農場や生田、中野キャンパスなどを会場に開催された。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」は、日本学術振興会の委託を受けた各大学や研究機関が毎年実施しているもの。

明治大学では今年度、①気づかなかった生物多様性in夜の

黒川農場の里山（農・倉本宣教授）②気泡径や気泡密度が異なるオゾンマイクログロブ水の植物病原菌の殺菌効果の違い（農・玉置雅彦教授）③地震の揺れから身を守る～振動を科学してみよう！～（理工・松岡太一講師）④日本の発酵食品を支える微生物～麹菌と乳酸菌（農・中島春紫教授）⑤救命具を作ってみよう～日本伝統文芸の折紙の基礎から産業応用まで～（研究・知財戦略機構・萩原一郎特任

教授）の5プログラムを実施。研究者がプロデュースする実験や講義に、8日間で130人の中高生が参加し、最先端の研究成果に触れながら科学の面白さを学んだ。

◇

8月7日、8日に中野キャンパスで開催された萩原教授の「救命具を作ってみよう」の教室では、日本の伝統文芸として世界から称賛される“オリガミ”を数学的に応用した「折紙



理工学部

黒田研究室が東急百貨店で 「ロボット・サイエンス教室」を開催

理工学部機械工学科の黒田洋司教授の研究室が8月7日～12日、東京・渋谷の東急百貨店本店3階イベントサロンにて、夏休み「ロ

ックショップも行われ、参加した子どもたちが模型飛行機づくりなどのペーパークラフト体験を楽しんでいた。



折紙の作業に没頭する子どもたち

工学」について、講義・実習・グループディスカッション・成果発表の流れで、分かりやすく解説。参加した子どもたちからは「折紙工学が日本の技術に深

反応するセンサを使用して、各々が描いた絵や写真をコンピュータ上でつなぎ合わせアニメーションを制作。完成発表会では、時折笑いが起きるなど、それぞれ感性がにじみ出た作品を楽しんだ。

反応するセンサを作り上げた。小学5年生の男の子は「うまくできて良かった。もっと色々な設定をして道で走らせてみたい」と充実感あふれる笑顔を見せた。